

令和7年度（2025年度）学校評価報告書

※ この学校評価報告書は、西谷認定こども園職員の自己点検、これまでにご協力いただきました行事ごとのアンケート及び先日の年度末保護者アンケート結果をもとに、学校関係者評価委員様（本園評議員様及びPTA会長、副会長様）にご意見をいただき作成したものです。

園名	宝塚市立 西谷認定こども 園	園長名	上垣 育恵
----	----------------	-----	-------

1 学校教育目標

「心をつなぎ たくましく生きる子どもの育成」	— 認めあい 育ちあい 学びあう —
・ 自分のことは自分でしようとする子ども	・ 感じたことを豊かに表現できる子ども
・ 友達と力いっぱい遊ぶ子ども	・ ふるさと「西谷」を愛し、思いやりの心をもった子ども

2 重点目標

○ 一人一人のよさが輝く楽しいこども園づくり	○ 地域の自然、人とのかかわりを通した開かれた園づくり
○ 家庭、地域と共に育ち合う園づくり	○ 研究・研修活動の充実による保育者の資質向上

3 学校自己評価結果（A：優れている B：良い C：おおむね良好 D：要改善）

領域	評価の観点及び評価項目	達成状況	学校の取組状況・改善の方策	4 評価項目ごとの学校関係者評価
園運営	開かれた園づくり	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の方と連携をとり、子どもたちに様々な直接体験、自然体験を提供することができた。子どもたちは地域の方や西谷の自然に親しみをもって関わる事ができている。また地域の人との関わりで学んだことを積極的に保育活動に取り入れた。 ○ ホームページで園の取り組みや子どもの育ちを継続的に伝えていった。また、学校運営協議会で学校関係者、地域の方に園の取り組みを発表し、知ってもらう機会をもつことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 西谷の子どもたちが、地域の人とのふれあいを通して西谷のよさや温かさを感じられる取り組みができている。 ○ 園の取り組みについて、工夫して広めているので今後も継続してほしい
	危機管理体制の整備	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 災害時避難訓練・不審者対応訓練等の年間計画を立て、実施することができた。実施後には点検をし、より子どもの安全を考慮したものになるように話し合った。次年度の訓練に活かせるようにしたい。 ○ 乳児クラスには防災頭巾、幼児クラスには座布団をそれぞれ人数分置き、環境を整えた。いざというときに対応できるよう職員間で連携していきたい。 ○ 前半は、養護教諭を中心に、生活習慣について、言葉で伝えるだけでなく、視覚的教材を用いるなどし、年齢や発達に応じた取り組みを行えた。養護教諭が退職後は保健指導が十分にできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 養護助教諭がいないことで不安はあるが、小中学校と連携できているのがよい。保健指導についても学校の養護教諭を招聘して行う方法もある。 ○ 生活習慣については園だけで育てることは難しいので、保護者と連携を取りながら進めていく必要がある。

	子育て支援の推進	<p>○家庭教育力の向上を目指し、保護者の学びや保護者同士のつながりがもてる場の提供</p>	<p>B</p> <p>○ 職員は子どもの様子や育ちを降園時に直接話したり、コドモンや連絡帳などで伝えたりするなど、その時々に応じて、工夫しながら、連携するように努めた。</p> <p>○ 園だよりや園長だよりで子育てについての情報などを伝える機会を定期的にもつようにした。</p> <p>○ 園内の保護者同士では、PTA 活動や有志の方のサークル活動を通して、関わる機会をつくっている。しかし、大半が保育所籍の家庭であり、就労時間が異なるため、保護者同士が顔を合わせて話せる機会は少なかつたと思う。今後も保護者同士がつけられる機会や学びの場を工夫し、設けることができるように努めていきたい。</p>	<p>○ 西谷の保護者の中にも個人主義な考え方の人が増えている。そのような保護者をつないでいくのが今後の園の役割になっていく。</p>
	職員の資質向上	<p>○保育カンファレンスの充実</p> <p>○深い幼児理解</p> <p>○乳児期から幼児期にかけての発達理解</p>	<p>A</p> <p>○ 保育後に職員たちが子どもたちの様子、育ち、課題を含めながら、自分の思いを話す機会を大切にした。定期的に園内研究会をもち、幼児理解につながるように、カンファレンスでは経験年数に違いのある職員ではあるが、自分の思いや考えを出し合い、みんなで話し合いを積み重ね、子どもたちの内面理解を多面的に捉えることができた。また、一人一人の職員の保育力の向上につながるように話し合い、振り返りをし、資質向上に努めた。</p> <p>○ 乳児保育研修会での学びを園内で共有すると共に、学んだことを職員間で共有し、発達の連続性を確認することに努めてきた。</p>	<p>○ 先生方が自分の意見を出しやすい雰囲気がある。どの先生も自分の保育に自信をもって活き活きと保育をしている。今後も子どもたちが楽しく主体的に遊んだり生活したりしていけるようにカンファレンスや保育研究を進めていってほしい。</p>
教育課程	乳幼児期にふさわしい生活の展開	<p>○子どもが主体的に遊びに取り組み、学ぶ力や人とつながる力の育成</p> <p>○子どもが喜んで体を動かし、主体的な遊びや生活につながるような体験の工夫</p>	<p>A</p> <p>○ 『響き合い』を研究テーマに置き、まずは個々の興味・関心を読み取り、様々な環境に自らかかわりながら主体的に遊ぶことができ環境構成や援助に努めた。また、どのような姿が響き合いなのか、響き合いに必要な援助や環境構成は何かを職員間でカンファレンスを重ね、子どもたちがつながり合える保育実践を工夫した。</p> <p>○ 子どもたちが思わず体を動かしたくなるような環境を年齢ごとに工夫し、自ら遊ぶ意欲を支えた。</p> <p>○ 園外に出掛け、地域の自然に存分に触れることで心も身体も動かしながら遊ぶことができている。</p>	<p>○ こども園の遊びを見ていると、私立ほど見栄えはしないが、子どもたちが自ら考え合って作ってきた遊びであることが分かる。そして、子どもたちが遊びを心から楽しんでいる。子どもが試行錯誤して遊びを創っていく過程が大切なので、今後もこのような経験ができるように取り組んでいってほしい。</p>

	基本的な生活習慣の育成	○個々の発達に応じた、園生活全体を通じた基本的な生活習慣の確立	A	○ 幼稚園部と保育所部の担任間で互いに連携を取り合いながら、子どもの育ちに応じて段階的に生活習慣の自立に向かって進めることができた。 ○ 個々の発達段階や特性を捉え、必要な援助を探ると共に、自分のことは自分でしようとする意欲をもてるような援助を意識した。また、集団の一員であることを意識し、時間の見通しをもったり、話の聞き方を考えたりできるような援助に努めた。 ○ 年齢に応じて、保育者援助や環境を見直しながら、子どもたちが環境を通して、基本的な生活習慣が整うことができるように努めた。また、子どもたちは日々気持ちの波があり、いきつ戻りつ成長していくことを踏まえて長い目で温かく見守るように努めた。	○ こども園は0歳から基本的な生活習慣を身につけられるように保育をしているので、子どもは生活面の自立がしっかりとできてくるであろう。しかし、共働きで忙しいため、こども園に任せきりになっている保護者もいる。基本的な生活習慣は家庭と連携しなければ身につかないので保護者への指導も大切にしていく必要がある。
	人権教育	○子どもの年齢に応じたふさわしい人権意識の育成 ○保育者自身の人権意識の向上	B	○ 友達の気持ちや自分の行動について考えられるように、個別に対応するだけでなく、学級に広めみんなで考え合う機会を大切にしてきた。また、今年度は人権参観日を行い、保護者と共に人権について学ぶことができた。 ○ 子どもの人権感覚を高めていくために、日々の生活の中で気付かせていくことを大切にしてきたが、今後は発達にふさわしい人権教材などの研究にも力を入れ、保育に取り入れていきたい。 ○ 日々の生活の中で、友達と関わる楽しさを感じられるように橋渡しをしていくことを大切にしている。また、小さな生き物や身近な自然物に心を寄せられるように言葉を掛けていくことを心掛けた。 ○ 人権研修や教員同士で協議をすることで、日頃の自分自身の感覚を振り返り、よりよい人権意識をもてるよう学ぶことができた。	○ 現代の子どもたちを取り巻く環境が子どもたちの人権意識の在り方に大きく影響する。ネット社会での誹謗中傷、残酷な動画など、子どもたちが生活の中で見聞きできてしまう。子どもの言葉遣いや友達を傷つける発言につながってしまう。子どものうちから善悪の判断をし、たくさんの情報の中で何を取り入れるべきかを選択できるようにしていくことが大切である。
課題教育	校種間の連携	○連携の意義を意識した交流の実施及び職員間の連携	A	○ 小学校1・2年生の担任と、年度当初に年間の交流の計画を立て、定期的に交流の機会をもつことができた。また、交流の前後に打ち合わせと点検を行い、それぞれの学びを共通理解し、次の交流に活かせるように努めた。 ○ ブロック研修会に参加させていただいたり、幼稚園と小中学校の交流の様子を見たりすることで、様子を感じてきた。	○ 西谷はこども園、小学校、中学校と縦のつながりがしっかりとできている。また先生たちもよく連携し合っている。今後も、ふれあい運動会など縦のつながりを大切にした取り組みを継続していってほしい。
	特別支援教育の推進	○個々の課題の発達と課題の把握と個別指導計画に基づいた支援内容の工夫	A	○ 個別指導計画を作成し、学期毎に計画と点検を職員間で検討・見直しを行った。また、日々の記録を共有し、育ちを共通理解し、みんなが同じ援助を行えるように努めた。 ○ 配慮を要する子どもに対し、どのような援助や環境がふさわしいかを職員全員で協議し、実行していった。成長に応じて常に必要な環境を準備していくことに尽力した。	○ 配慮を要する子どもがどの園でも増えていると聞く。先生たちも大変だと思うが、課題や援助を共有しながらふさわしい援助を行っていると感じる。

独自項目	保育者同士の連携・協力体制の確立	<p>○異年齢保育の充実に向けた保育者間の連携</p> <p>○幼稚園職員と保育所職員の連携</p>	A	<p>○ 日々の保育の中で異年齢で過ごす時間を大切にしてきた。特に今年度は2学期中旬から4・5歳児と一緒に過ごすようにしたり、2・3歳児の交流を多くもったりするなどした。異年齢保育の充実に向けて、職員間での話し合いや打合せ等を積み重ね、子どもたちにとって有意義なものになりつつある。未就園児は2歳児との保育を行い、双方にとってより楽しく、あたたかみ関わりの中で過ごせている。</p> <p>○ 毎朝、幼稚園部の全職員で打合せを行い、全職員が見えるホワイトボードに予定を書き記すことで、互いの予定を共有している。また、園内研究会では幼稚園部の職員と保育所部の職員が参加できるようにし、保育カンファレンス等、話し合う時間、情報共有を大切にしている。</p>	<p>○ こども園は上の子が下の子を助けたり見本となったりできている。また、下の子は上の子にあこがれをもち目標としている姿が見られる。西谷において、人数が少なく縦のつながりは大切である。</p> <p>○ 職員がたくさんいるので、打ち合わせなどが難しいと思うが、工夫して調整し、きちんと話し合うべきことを話し合っていることはよい。今後も子どもの育ちや課題の共有を丁寧に行っていくしてほしい。</p>
------	------------------	--	---	--	---

5 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

行事ごとにアンケートをとり、集計結果をまとめていることで十分な資料となっている。また、職員間で行った自己評価と保護者からの園評価を参考にして、学校評価も行われている。現状の実施方法でよいと考える。

6 総合的な学校関係者評価

少人数のよさをいかし、職員が一人一人を丁寧にみながら保育を進めているのがよい。また地域の方との交流や西谷地域の自然体験を大切にし、地域を愛する心の育成に努めていると感じる。

子どもたちが、させられるのではなく自分で考え主体的に遊んでいるので伸び伸びとしている。そのようなこども主体の保育がなされていることを高く評価したい。こども主体の保育を今後も続けてほしい。